



[学校教育目標]自ら学び、心身共にたくましく、創造性豊かに生きる子どもの育成
～自立し、共に、よりよく生きようとする手熊っ子の育成～

[5つの習慣] ていねいなあいさいあいさつ く草花や生き物を大切にしよう
まわりとあったかい心ですごそう つづけよう勉強・運動 こうしゃだいすきそうじ

[長崎っ子の約束]長崎市では同じ言葉で子どもたちに呼びかけることで、長崎の子どもたちが健やかに育つことを心から願い、「あ・は・は運動」に取り組んでいます。

あいさつ・へんじ げんきよく! はやね・はやおき・あさごはん! はきものそろえ いいきもち!



今度の日曜日(26日)は運動会です。!

校舎前の法面の「サツキ(花言葉:節約・節制, 左の写真)」が、赤いかわいらしい花を咲かせ始めました。「夏はもうすぐそこ!」です。

今度の日曜日(26日)の運動会に向けて、子どもたちは練習や準備を頑張ってきました。手熊小校区の運動会ですので、保護者・地域の皆様の盛大な御協力・御支援をよろしく願いいたします。

天候等で開催が心配なときだけ、態度決定を朝6時30分から連絡いたします。大丈夫なときは、何も連絡いたしません。以上お知らせいたします。



《予行練習:5/22》

望ましいしつけのあり方!

しつけは、子どもが人として社会生活にうまく適応しながら、自分の夢を実現していくために、最低身に付けなくてはならない基本的な生活習慣です。これは生活の基本ですから、親が我が子に、小さいときから毎日の生活の中で身に付けさせていかなければなりません。

次に、基本的な生活習慣の幾つかを述べます。

1. 大人が範を示し、情緒の安定を図る。

睡眠、食事、排せつ、着脱衣、自立(身の周りのことを自分でする)、安全など、基本的な生活習慣が身に付いている子は、情緒が安定しています。人間は、情緒が安定しているときは、自分自身に素直になることができ、他者を受け入れることもできます。また自分の力を十分に発揮することもできます。

子どもの情緒の安定を図るには、まず親自身が明るく精神的に安定していることです。子どもと積極的に会話し、子どものよさを認め励ましてやれる親でなければなりません。親の方から「おはよう、よく眠れたね」とか、「お帰り、学校は楽しかった」「おやつを作ってあるよ。手を洗ってからね」など、日常交わされる会話の積み重ねが情緒の安定した子どもを作ることとなります。

2. あいさつのできる子に。

人と人とのつながりは、まず、あいさつを交わすことから始まります。親がふだんそのことにどれだけ意識しているかにかかってきます。

先日、アミュプラザのエレベーターに乗ったら、途中から幼児を連れた近所の母親が私に向かって「こんにちは」と言ったら、幼児も「こんにちは」と言って頭を下げました。その親子が途中で降りるとき、母親が「お先に失礼します」と言って降りようとするので、幼児がだまってるので、母親が「何か忘れてない」と声をかけると、幼児はハッと気付き、「さようなら」と言って降りました。母親のしつけぶりに感心しました。

3. 家事を共にすること。

家庭の最も大きな役割は「やすらぐ」ということです。親が子どもにできる範囲の家事をさせることで、子どもは、「家族の一員として役立つ」という実感から、気持ちを明るくもつことができ、家庭がやすらぐ場となります。「手伝いはいいから勉強しなさい」では、家族の一員としての自覚を希薄にするだけでなく、自立を遅らせることとなります。

4. 我慢することを身に付けさせる。

今の子どもは耐性に欠け、自己中心的だと言われることがあります。その一因は親が何でも聞き入れ、我慢することをさせないからだと言われます。

子どものときから、自分のしたいことがあっても、また、したくない気持ちが強くても、自分を抑えて課題に向かってやり通そうとする子どもでなければ、社会生活に適応し社会のために役立つ大人にはなれません。

そのような子どもを育てるには、親の言っていることや態度が一貫していることです。親の都合や気分我慢しなくてはならないのでは、本当の意味での我慢は育ちません。

子どものときから、我慢することを身に付けている子は思いやりの気持ちも培われます。

子どものしつけは、子どものよさを認め励まし、根気強く指導することだと思います。